

平成 25 年度「先進的通信アプリケーション開発推進事業」採択提案一覧

【タイプ I】

課題名	開発代表者	概要
マイネットワークを実現するSDNコントローラの開発	磯部 俊洋 (株)エヌ・ティ・ティ・データ	ユーザ/テナントごとの「マイネットワーク」として、物理ネットワーク上に各ユーザ/テナントの権限や特定の属性に基づいた論理ネットワークを構築する SDN コントローラを開発
医療・看護・介護連携のための患者さん毎のSDN仮想ネットワークシステムの開発	齋藤 秀 (インフォコム(株))	SDN技術の医療・看護・介護分野への適用実現を目指し、患者毎に関与する医療関係機関やストレージをアイソレーションする通信ネットワークを備えた情報共有システムを開発
優先的に通信可能な災害情報共有アプリケーションの開発	高幣 玲児 (株)構造計画研究所)	災害時にネットワーク集中利用や特定通信設備への一極集中アクセスが発生した場合においても、地方公共団体や防災関係機関等が災害情報を優先的に収集し、効率的に情報提供することのできる災害情報共有アプリケーションを開発

開発代表者の五十音順に掲載

【タイプⅡ】

課題名	開発代表者	概要
新世代ネットワークにおける検索ネットワークKCN (Keyword Centric Network)の開発	岡村 耕二 (九州大学)	新世代ネットワーク上での新しい検索ネットワークのプロトタイプとして、KCNを提案し、アプリケーションプログラムから直接利用できるための数々の必要なAPI等を開発
耐災害性を有するクラウド型遠隔代替稼働システムの開発	加藤 和彦 (筑波大学)	大規模災害時における遠隔代替稼働を、低コスト、低エフォートで利用可能とするシステムを開発
動的複製再配置を必要としない大容量コンテンツ配信基盤の開発	金子 晋文 (慶應義塾大学)	大容量コンテンツ配信技術をもとに、現実的な環境において高品質なHD映像や4K映像の配信動作検証を行い、コンテンツ配信プラットフォームを開発
PIAXを利用したセンサデータ売買プラットフォームの開発	坂井 隆一 (株)システム計画研究所)	オープンなネットワークでのセンサデータ利用促進を目指し、PIAX (P2P Interactive Agent eXtensions) を利用してセンサデータを P2P で売買するプラットフォームを開発
災害対応モードを有する次世代移動体通信機能の開発	重野 寛 (慶應義塾大学)	平常時に一般目的向けに利用されている移動体通信網と機器を、災害発生時に救命に必要な情報共有システムにモードチェンジするシステムを開発
ネットワーク仕様定義による広域分散ネットワークの自動運用管理システムの開発	林 達也 (株)レピダム)	バックボーンにおける新世代ネットワークの普及にあわせ、そこに接続された複数のネットワークの一貫したネットワーク管理を可能とするシステムを開発
正確な測位情報と時刻情報に基づいた次世代メディアの開発	村井 純 (慶應義塾大学)	様々なメディア情報の時刻・位置情報を同期する次世代の情報配信アーキテクチャ提案と具体的なアプリケーションを開発
コンテンツ保護機能を持つスケーラブルなライブ映像放送サービスの開発	森村 吉貴 (京都大学)	インターネットライブ映像放送等の普及展開の上で重要な多様なユーザ数と利用帯域に対するスケーラビリティを実現させる JFD (Joint Fingerprinting and Decryption) 法ライブ映像放送サービスを開発
M2Mクラウド・データの自律集約開放性機構を備える通信アプリケーションの開発	吉川 浩人 (dブロード(株))	M2Mの無数のセンサーデバイスから発するパケットサイズの小さい大量のデータパケットを、自律的にパケットサイズの大きいデータパケットに集約・ネットワーク転送を行う通信アプリケーションを開発

開発代表者の五十音順に掲載